

わたしのがんばり方

一宮西部小・3 長坂 和花

「もう、なんでできないの。」

わたしは、二年生の夏、新しいことにちようせんした。新しいことにちようせんするとき、わたしはいつも、この言葉を言ってしまう。

わたしは、四才のときからバレエをつづけている。バレエは、キラキラしていて、きれいで、おとぎ話の世界に入れる、と思ったことがきっかけで始めた。ある日のレッスンでストレッチをしていると、先生が、

「みんな、ブリッジはできるね。次は、立ちブリッジにもチャレンジしてみようか。」
と言った。

「立ちブリッジってなんだろう」

はじめて聞く言葉だったけど、なんだかわくわくした。わたしは、家に帰るとさっそく動画をけんさくした。動画を見ると、わたしと同じ年ぐらいの女の子が立ったじょうたいから、後ろにたおれてブリッジをした。つづけて、ブリッジをしたじょうたいから起き上がってきれいにまっすぐ立っていた。

「わあ。同じぐらいの年なのに体そうせんしゅみたい。わたしもできるようになりたい。みんなのお手本になれるくらい上手になりたいな」

そんな気持ちがわき上がってきた。

次のレッスンで四才年上のお姉さんが来た。そして、立ちブリッジを見せてくれた。わたしは、

「わあ。動画で見た子と同じくらい上手。どうしたらできるんだろう。」と思った。それから毎日、家族に手伝ってもらいながら練習をがんばった。お母さんに、

「わーちゃん、もう一時間たってるよ。がんばってるねえ。」
と言われ、「え、もう？」と思った。

楽しいから、つい時間をわすれてしまった。でも、たまに、やめたい、あきらめたいと思うときがあった。そういうときは、えがおで楽しそうに立ちブリッジをしているわたしをそうぞうする。そうしたら、わたしは、なんだか、がんばるぞと思えた。

わたしは、お父さんにささえてもらって立ちブリッジをした。毎日やっているのに、なんだか今日はこわい気持ちでいっぱいだった。それでもがんばった。いつもはころんしてしまう。でも、あれ？今日できた。こわい気持ちから、うれしい気持ちでいっぱいになった。お父さんが、

「こわくなくなったらかんぺきだね。」

と言った。わたしは、うれしくて何度も立ちブリッジをした。でもできたのは、起き上がる方。立ったままから後ろにたおれるのは、まだできない。だって、こわい気持ちに勝てないから。でも、いっぱい練習してできるようになりたい。

次の日、わたしはまた朝から練習をした。次の日も、次の日も練習をした。そして、三週間たった。前みたいに、お父さんにささえてもらった。ささえてもらって、何度も練習した。

そして、ついにできた。やっとできた。うれしかった。「ささえな

しでもできるようにしたい。」その気持ちを持ちつづけて練習をした。

ある日、わたしは、家族に見守ってもらって、ささえなしで立ちブリッジをした。できた。とつてもうれしかった。

むずかしいことでもチャレンジして、練習をつづけること。あきらめないこと。これがわたしのがんばり方。

今年、わたしは三年生になった。秋にバレエの発表会がある。なんと立ちブリッジがふりつけにある。さいしよの練習で先生に、

「和花、立ちブリッジのお手本をみんなに見せて。」

と言ってもらった。わたしは、ねんがんのお手本になれた。去年ががんばって本当によかった、と心から思った。

「もう、なんでできないの。」

これは、わたしのがんばりのはじまりの言葉。